

第3期 概要版

京丹波町 子ども・子育て 支援事業計画

広げよう 地域の輪 みんなで子育てするまち 京丹波

かかわり
愛(合い)

かまい
愛(合い)

つながり
愛(合い)

NEW!!
つたえ
愛(合い)



はじめに

子ども・子育て 支援事業計画とは？

京丹波町で実施する、子どもや子育てに関する取組の目標や方向性を示す計画です。
ライフステージに応じた切れ目ない支援を行っていきます。

計画の対象者

京丹波町に住むすべての子ども(0歳から概ね18歳)、子育て家庭やこれから出産期や子育て期を迎える家庭、そして地域で子育てを支える方や事業者を対象とした計画です。

計画期間

令和7年度～令和11年度の5年間の計画です。

子ども・子育てビジョン

“ 広げよう 地域の輪 みんなで子育てするまち 京丹波 ”

子どもと大人がふれあい、出会いや体験を楽しみながら成長していけるよう、
また、「みんな で子育てする」まちづくりを進めていけるように設定しました。

計画の基本目標

基本目標

01

かかわり愛(合い)

自分らしく輝ける子が育つ環境づくり

基本目標

02

かまい愛(合い)

いきいきと楽しみながら子育てできる体制づくり

基本目標

03

つながり愛(合い)

安心して子育てできる居場所を提供する郷づくり

NEW

つたえ愛(合い)

3つの目標をさらに進めるために
地域で情報発信や情報共有を推進

基本理念の実現のため、“かかわり愛(合い)、かまい愛(合い)、つながり愛(合い)”に関連した
3つの基本目標を定めました。さらに、各種支援や取組、各団体や地域の皆さまの活動の情報を広く
“つたえ愛(合い)”, 情報発信や情報共有に向けた取組も進めていきます。



すべての子どもは、健やかにそして自分らしく幸せに生きていく権利を持っています。

子どもたちが豊かな人間性をはぐくみ、健やかに成長していけるよう、子どもの心身の健康に関する相談や情報提供など妊娠・出産期からの切れ目のない支援を行うとともに、子どもたちが家庭、学校、地域の中で多くの人と“かかわり愛(合い)」、経験・体験を重ねる中で生きる力を身につけ、たくさんの可能性の中から自分らしく輝く未来を選択できるような支援を行います。

施策の方針

1. 子どもが「健やかに成長」するための環境づくり



主な事業

母子健康手帳発行時の面談、発達支援事業、マタニティ産後ヨガ教室、ベビーマッサージ教室、ブックスタート事業、給食での地産地消の取組など

2. 子どもの豊かな人間性をはぐくむ環境づくり



主な事業

地域資源や伝統文化を活かした体験学習、「地域とともに歩む学校」づくり、探究的な学び・ライフデザイン教育、図書館事業の充実、子どもの相談窓口など

京丹波町の現状・課題

データ・評価

子どもの人口の減少が続き、令和11年には515人と、令和6年の7割程度に。認定こども園の利用人数や小学校児童数も減少する見込み。

未就学児・小学生の推計人口



アンケート調査

- ✓ 子育て支援の満足度は5点満点中、就学前児童の保護者で2.96点、小学生の保護者で2.80点。
- ✓ 子育て情報をインターネット、園や学校、町広報から入手する保護者が多い。
- ✓ 貧困の状況は全国水準。

子ども・子育て審議会

- ✓ 子どもたちが様々なことを体験・経験できるような環境づくりが必要。
- ✓ 不登校の児童も全国的に増えているので、対応を考えていく必要がある。
- ✓ 子どもたちが課題を自分の力で解決していけるような支援ができるといい。



● かまい愛(合い)

いきいきと楽しみながら子育てできる体制づくり

すべての子育て家庭がいきいきと楽しみながら子育てができるような支援体制づくりを進め、身近で気軽に利用しやすい子育て支援サービスの充実を図ります。子どもの成長や経済面など、悩みや不安を抱えて孤独に感じる方も少なくない中で、身近な地域で子育て家庭をしっかりと“かまい愛(合い)」、保健・医療・福祉・教育等のネットワークによる頼りたいと思えるような支援体制の強化を進め、子育てに自信を持ち、親も子どもとともに育ち続けられる環境づくりに取り組みます。

💡 施策の方針

1. 安心して楽しい子育て 支援体制づくり



主な事業

子育て支援センター拠点事業、情報提供体制の充実、子どもの多様な特性に合わせた支援、子どもの医療費助成、不登校の子どもへの支援、保護者の負担軽減策など

2. 子育てと仕事の調和の 実現に向けた体制づくり



主な事業

ワークライフバランスの普及啓発、再就職の支援、父親の子育てへの参加促進、育児休暇の取得や子育て期間中の短時間勤務取得促進に向けた企業への周知活動など

京丹波町の現状・課題

📊 データ・評価

- ✓ 出生数は減少傾向で、合計特殊出生率は国や京都府の数値を下回っている。
- ✓ 女性の就業率が京都府内で比較すると高い。
- ✓ 放課後児童クラブの利用者数が増加傾向となっている。

📝 アンケート調査

- ✓ 子育てを楽しんでいる人が増えてきているが、負担を感じる人も2割いる。
- ✓ 父親の子育て参加が増えており、両親で子育てする意識が育ってきている。
- ✓ 教育や将来の教育費に不安を抱える人が多い。
- ✓ 急病時の対応は、仕事と子育ての両立に向けた課題になっている。

👨‍👩‍👧 子ども・子育て審議会

- ✓ 保護者が安心できる場所・相談できる場所や、急用などの理由で子どもを預かってもらえる場所も必要。
- ✓ 移動手段の少なさは保護者にとっても負担。子どもだけで移動できる手段があるといい。



● つながり愛(合い)

安心して子育てできる居場所を提供する郷づくり

子どもや子育て家庭が日常生活を送る地域は、子どもたちの学びや体験の場、子育て家庭の相談先やひと息つける居場所など、子育てを温かく支えていく環境として大変重要です。世代や立場、時には地域を越えてお互いに“つながり愛(合い)”，すべての子どもと親が「一人じゃない」と感じられるよう、誰もが子育ての当事者の視点を持って支援できる地域づくりを促進します。地域の人々が主体的に子育て支援の活動に参加し、地域の特色を最大限に発揮できる子育て環境となるよう、地域と行政とが協働し、子どもの声が絶えない“全員活躍総子育て地域”の実現に向けた仕組みづくりを進めます。

💡 施策の方針

1. 子どもが安心・安全に育つ地域づくり



主な事業

地域ぐるみの防犯体制の確立、交通安全教室の実施、通学路などの危険箇所調査、子育てにやさしい施設整備など

2. 子どもをはぐくむ地域・コミュニティづくり



主な事業

あいさつ運動、地域の方と子どもの交流、ぬく森のイブプレゼント、「子育ての町」の情報発信、住宅リフォーム支援など

京丹波町の現状・課題

📊 データ・評価

- ✓ 全国と比べ、三世帯世帯の割合が高い。
- ✓ ファミリー・サポート・センター事業の延べ利用者数が増えている。

📝 アンケート調査

- ✓ 三世帯同居・祖父母近居が近隣自治体等と比べて多いが、就学前児童の家庭では割合が少し低い。
- ✓ 相談先は、身近な家族や友人が多い。
- ✓ 祭りなどの伝統行事に参加する割合が減っている。

👥 子ども・子育て審議会

- ✓ 支援を必要としている人に情報が伝わらないといけない。
- ✓ 多世代の交流や異年齢の交流の視点も含めて、地域全体で子育てしていけるといい。
- ✓ 大人自身が「京丹波町は良いところ」だと感じて、子どもたちに伝えていけるようにしたい。

NEW

＼ 広げよう！ /

つたえ愛（合い）の輪

京丹波町には、地域ぐるみで子どもを見守り、子育てを温かく支えるコミュニティが根づいています。

しかし近年、つながりの希薄化が懸念されており、本町の強みである地域の絆をいま一度深めていくために、必要な情報を必要な人へ届けていく“つたえ愛（合い）”の重要性が高まっています。困りごとを抱えている方が孤立しないように、地域で暮らす皆さんが、悩みなどをお互いに相談できるような信頼関係を築き、気軽にコミュニケーションや情報が共有できるようなまちにすることで、「かかわり愛（合い）・かまい愛（合い）・つながり愛（合い）」の子育て環境づくりのさらなる推進につなげていきます。

つたえ愛（合い）というキーワードが生まれるまでに 出た意見（子ども・子育て審議会）

「かかわり愛・かまい愛・つながり愛」はすごくいい言葉だが、必要な情報が必要な方に届いていないのではないか...？

「つたえ愛」のポイントはこちらから伝えるだけではなく相手から話をしてもらえりような環境をつくり出すこと。

情報伝達には人と人とのつながりが必要で、信頼関係によって強い共感が生まれるのではないか。

つたえ愛（合い）を実現する土壌を作る 地域コミュニティ

赤ちゃんのこと
なんでも聞いて

子育て支援金があるの知ってる？

今週日曜日
面白いイベント
があるよ！

小学校入学の
準備って
何が必要なの？



Q & A おしえて！ 京丹波町の子育て

Q 京丹波町でどんな体験学習ができるの？

A 町の特産の栗や町内にある山城など、豊かな自然や伝統文化を活用し、子どもたちが自分や他人のことを大切に思う気持ちや郷土愛をはぐくめるような体験活動を展開しています。
子どもたちからは「子どもが少ないので他の学校と一緒に交流したい」という声もあり、町内の小・中学校に加え、須知高校や認定こども園との交流も行っています。

Q 仕事と子育て、両立に向けた取組みは？

A 親自身も心豊かに暮らしていける環境づくりとして、放課後児童クラブやファミリー・サポート・センター事業、病児保育の受入れを確保しています。ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を推進するため、職場を対象に育児休暇や子育て期間中の短時間勤務の普及を呼びかけ、父親が子育てについて学べる機会を提供しています。

Q 子育てに負担や不安を感じるのですが…

A ライフステージに応じた切れ目のない支援を充実させ、交流・相談の場や子どもの居場所づくりなど、すべての子どもが健やかに生まれ育っていくための様々な支援施策に取り組みます。町が実施している様々な助成事業や負担軽減策について、「広報 京丹波」や京丹波あんしんアプリ、SNSなどを活用してさらなる周知に努めます。

Q 京丹波町らしい子育て環境を残していくには？

A 地域の皆さんが子育て家庭や子どもに気軽に相談やアドバイスができるような、京丹波町らしい「おせっかいなまち」を将来にわたって残していくために、子どもや子育てを応援する地域活動とコミュニティの維持・継続を支援します。子どもへのあいさつや見守りの推進、地域と子どもの交流の促進、子育て情報の積極的な発信を通じて、地域ぐるみで子どもをはぐくむ意識の向上に努めます。

第3期 京丹波町子ども・子育て支援事業計画 概要版

令和7年3月発行：京丹波町 健康福祉部 子育て支援課

※計画書の全体版やアンケート結果については京丹波町ホームページをご覧ください。

京丹波町
ホームページ
はこちら



〒622-0292 京都府船井郡京丹波町蒲生蒲生野 487番地1

Tel：0771-82-1394 Fax：0771-82-0446



京丹波

KYOTAMBA

